

行政視察報告

委員会名	総務委員会
視察日	令和7年5月14日（水）
視察先	北海道函館市
視察委員	秋 家 聡 明 委員長 江 口 ひさみ 副委員長 大 森 ゆきこ 委員 峯 岸 良 至 委員 小 山 たつや 委員 米 山 真 吾 委員 中 村 しんご 委員 小 林 ひとし 委員 中 村 しんご 委員 舟 坂 と も 委員 むらまつ 勝康 委員
調査項目	函館市地域交流まちづくりセンターについて
事業概要	函館市地域交流まちづくりセンターは、市民活動支援、地域情報の発信、人々の交流の場づくり、移住者支援という4つの機能を持った施設。 1923年（大正12年）に建てられた丸井今井函館支店百貨店の特徴的外観を保存・再利用したもので、2007年（平成19年）オープン以来、新しい西部地区のランドマークとして地域の方をはじめ、観光客の方など多くの方に利用されている。
視察内容	<函館市地域交流まちづくりセンターについての概要> 主な目的 ○ 市民が営利を目的とせず、自発に行う公益な活動の支援 ○ 市民の文化活動および交流機会提供 ○ 地域の情報発信 事業概要 1 市民活動に関する助言，学習機会の提供その他の支援に関すること 2 市民の文化活動および交流に関する講座の開催等学習機会の提供に関すること 3 地域の情報の発信に関すること 4 市民活動，文化活動等に必要な施設および設備の提供に関すること 5 その他センターの設置の目的を達成するために必要な事業
主な質疑内容	問： 利用者のセンターへ交通手段や利用状況について伺う。 答： 駐車場が一応30台あるが、公共交通機関や乗り合いでの来場をお願いしている。平日の昼は近所の方の利用が多い印象があるが、土日や夜は若い方が多く、日曜よりも土曜日の方が稼働率が高い。 問： 函館市への移住・定住者について伺う。 答： 函館市は雪も少なく温暖で過ごしやすい。移住者はリタイア組が多いが、リモートで仕事ができるので最近では若い人も増えている。賃貸もあるし、購入して移住する方もいるが、昨年からお試し移住というのを始めた。

行政視察報告

委員会名	総務委員会
視察日	令和7年5月15日（木）
視察先	青森県八戸市
視察委員	秋 家 聡 明 委員長 江 口 ひさみ 副委員長 大 森 ゆきこ 委員 峯 岸 良 至 委員 小 山 たつや 委員 米 山 真 吾 委員 中 村 しんご 委員 小 林 ひとし 委員 中 村 しんご 委員 舟 坂 と も 委員 むらまつ 勝康 委員
調査項目	地域コミュニティ振興について
事業概要	八戸市では、市民が主役のまちづくりを掲げ、市民と行政がそれぞれの立場を尊重しながら、適切な役割分担のもとに協力してまちづくりに取り組む、「協働のまちづくりプロジェクト」を位置づけて重点的に取り組んでいる。
視察内容	<協働のまちづくりプロジェクトの概要> 【施策】 町内会等の活性化 ・八戸市連合町内会連絡協議会連携事業 ・「地域の底力」実践プロジェクト促進事業 【施策】 協働の仕組みづくりの推進 ・協働のまちづくり研修会 ・「元気な八戸づくり」市民奨励金制度 ・学生まちづくり助成金制度 ・高校生地域づくり実践プロジェクト ・まちづくりインターン助成金 ・ハチカフェオフサイトミーティング ・住民活動保険 <地域担当職員制度（H20年度～）> 市民と行政の協働のまちづくりを推進するため、地域コミュニティと行政が協力し合い、市民の自主的な地域づくり活動の促進及び市の広聴窓口の充実を図る。 <学生まちづくり助成金制度（H23年度～）> 学生の特長（柔軟な発想・行動力など）を活かした地域振興や地域貢献に関する活動を促進することにより、地域の活性化を図るとともに、次代を担う学生の社会参加への意識の醸成を図る。
主な質疑内容	問：まちづくりインターンについて、どのような方がインターンとなるのか。 答：市が直接、声かけはしておらず、基本的に町内会や市民団体が日頃の付き合いやつながりの中で、高校生などに声かけをしている。具体的には、地域内にある高校などに声かけをすることが多い。 問：地域担当職員が土日に出た場合、休日出勤扱いになるのか、地域担当手当のようなものがあるのか、それともボランティアなのか。 答：休日出勤や5時以降の勤務の場合、時間外手当を支給している。地域担当職員になったからといった特別な手当はないが、インセンティブということで、昨年度から人事評価の中で評価の対象としている。

行政視察報告

委員会名	総務委員会
視察日	令和7年5月16日（金）
視察先	青森県八戸市
視察委員	秋 家 聡 明 委員長 江 口 ひさみ 副委員長 大 森 ゆきこ 委員 峯 岸 良 至 委員 小 山 たつや 委員 米 山 真 吾 委員 中 村 しんご 委員 小 林 ひとし 委員 中 村 しんご 委員 舟 坂 と も 委員 むらまつ 勝康 委員
調査項目	八戸ポータルミュージアム（はっち）について
事業概要	八戸ポータルミュージアム、通称「はっち」は、新たな交流と創造の拠点として、賑わいの創出や、観光と地域文化の振興を図りながら、中心市街地と八戸市全体の活性化するため、2011年2月にオープンした。 八戸の魅力を凝縮して展示する八戸観光の入口（ポータル）であると同時に、シアターやギャラリーはアーティストや市民の活動の場として活用されている。
視察内容	○事業のコンセプト 1 会場づくり 誰でも気軽に立ち寄れる場、ひとが集いコミュニケーションが生まれる場、地域の文化に触れられる場をつくる。 2 貸館事業 シアターやギャラリー、多目的スペースなど様々なスペースを設け、まちを元気にする活動をサポートする。 3 自主事業 地域の資源を活かした事業のプロデュースにより新しい価値を創造するため、4つの柱に基づいた事業を展開している。 ①中心市街地賑わい創出事業 ②文化芸術振興事業 ③ものづくり振興事業 ④観光振興・フィールドミュージアム推進事業 ○展示のコンセプト 八戸の見どころや魅力を、市民作家や市民学芸員の芸術作品をとおしてわかりやすく紹介し、ここからまちなかや観光地に誘う、玄関口としての展示。また、「はっち」館内で展覧会や発表会、練習などで活動している元気な市民の姿や、読書や憩っている市民、八戸弁でおしゃべりをしている素のままの市民の姿も含め、まるごと八戸が感じられる施設。 市民にとっては、八戸の魅力を再認識し誇りに思う場、観光客にとっては八戸にきたら必ず寄ってみたい場となる。
主な質疑内容	問：自主事業について、毎年行っているものもたくさんあると思うが、一回やって次の年にはもうやらないようなことはあるのか。 答：4つの方針に合っていれば問題ないが、そうでない場合、1年でやめるものもあれば、3年たってやめるものもある。